

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇PVC News No.114号を発行

塩化ビニル環境対策協議会

■ [随想](#)

◇知ってそうで知らないシロアリの話 ⑦

株式会社テオリアハウスクリニック 平 一暁

■ [編集後記](#)

■ トピックス

塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、11月18日に [PVC News No.114](#)号を発行しました。前号に引き続き、社会的に関心が高まっている地球環境問題に焦点を当て、今号の特集では「脱炭素社会と塩ビ」をテーマとして、早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構ナノプロセス研究所客員教授加茂徹氏を取材し、プラスチックのリサイクルを考える上で重要な「炭素循環」について話を伺いました。

リサイクルの方法には、マテリアルリサイクル（MR）、ケミカルリサイクル（CR）、エネルギー回収（TR）といった手法がありますが、プラスチックのTRは「炭素循環」という一面から見ると、ベストなリサイクル方法とは言い難いということ、つまり、これまではプラスチックを燃やして発生するCO₂のことを考えていなかったため、固定化することまで考えることが、これからのリサイクルにおいて重要であることを解説されています。また、バイオマスプラスチックについては、CO₂発生を抑制する効果はあるが、土地や水に関わる問題や、食料生産と競合することなど、様々な角度からプラスチックの炭素循環と持続可能な社会構築について話を伺いました。



次に「リサイクルの現場から」では、壁紙、床材、カーテンなど様々なインテリア商品を手掛けている(株)サングツを訪問した取材で、2021年3月に設立した見本帳リサイクルセンターの概要、並びに同社の環境負荷低減に向けた取り組みについて紹介してい

ます。見本帳の解体と分別の作業に関しては障がい者を雇用するなど、ダイバーシティの推進にも注力されています。

「インフォメーション」の一つ目は、半導体工場などで使用される工業用 PVC プレートを手掛けているタキロンシーアイ(株)を訪問して、高機能製品の「FM プレート」に関する開発の意義や経緯、工夫された取り組みなどについてお話を伺いました。

二つ目は、壁紙、床材、カーテンなどインテリア商品の企画開発・販売を行っているシンコールインテリア(株)を取材し、最近コロナ禍で注目されている抗ウイルス加工壁紙の開発、認証マークの取得及びラベル表示などの取り組みについて紹介しています。

三つ目は、岐阜市でビニール工房を構えている(株)三共を取材し、長年に亘る軟質 PVC 製品の加工技術を活かして、全国の顧客と連携してニーズに応えながら多彩なアイデア商品を開発し市場に提供している同社の取り組みについてお話を伺いました。

四つ目は、可塑剤工業会を訪問し、軟質 PVC 製品の加工に不可欠な可塑剤を取り巻く最近の規制動向など取材した内容について紹介しています。代表的な DEHP（フタル酸ジ-2-エチルヘキシル）は既に欧州では厳しい規制が行われていますが、米国や日本でも行政によるリスク評価の進展が見られ、今後の動向に注視する必要があるようです。

「広報だより」では、2021年7月1日にインテリアフロア工業会と日本インテリアファブリック協会が統合され、(一社)日本インテリア協会としてスタートすることになり、同協会内に改めて発足した「プラスチック床材部会」の今後の活動について紹介しています。

今号より表紙のデザインをリニューアルし、親しみやすさを込めたイメージにしました。PVC が私たちの生活を支えている素材であって、環境・社会に貢献している様々な情報をこれまでと同様にお届けしたいと思っています。

PVC ニュースのご講読を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

info@vec.gr.jp

■ 随想

◇知ってそうで知らないシロアリの話 ⑦

株式会社テオリアハウスクリニック 平 一暁

わたくし、(株)テオリアハウスクリニックの平 一暁（たいらかずあき）と申します。弊社は1974年に設立したシロアリの防除会社。「何でシロアリ屋がVECのメールマガジンに寄稿するんだ！」というお叱りの声が聞こえてきそうですが、文字スペースの問題もありますので、ご興味のある方はVECさんホームページの「塩ビと環境のメールマガジン配信中」という緑のマークをクリック頂いて、[2019年5月23日配信の①](#)が掲載されたバックナンバーをご覧頂けたら幸いです…（汗）

では今回は、脅威の外来種のシロアリについて、お話し致します…

シロアリにだって外来種はいる！

昨今の、池の水を抜いて在来種を保護し、池の清らかさを取り戻す、という番組では、外来種の生物は悪役扱い。そもそも、人間が他のエリアから運び込んでしまったが為に外来種というレッテルを貼られています。連れて来られた生物だって一所懸命に生き抜こうとしての結果なのですから、可哀そうな話ですよ。

さて、シロアリの世界にも外来種があります。北海道の一部を除いた日本全国に生息するヤマトシロアリ。西日本や四国、九州、沖縄や諸島の温暖な地域に生息するイエシロアリ。小笠原諸島辺りのみに生息するダイコクシロアリ。イエシロアリなどは中国と初めて国交を開始した遠い昔に入ってきた外来種とも言われていますが、この辺りが日本の在来種と位置付けられています。これに対し、45年前に日本で初めて発見された外来種がアメリカカンザイシロアリです。



アメリカカンザイシロリの働きアリと羽アリ
(出典：(株)テオリアハウスクリニック)

こうしてアメリカカンザイシロアリは来日

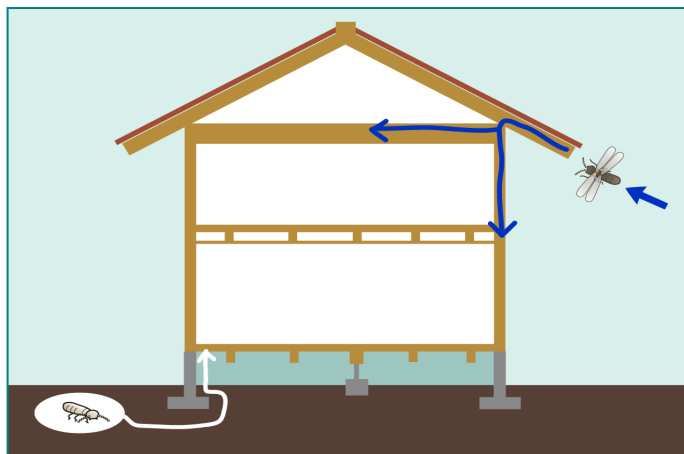
1976年に東京都江戸川区で初めて発見されたアメリカカンザイシロアリ。原産地は北アメリカのカリフォルニア周辺と言われていますが、輸入家具、輸入木材と共に都度入国し、温暖化もあって日本の気候に馴染んでしまったようです。それにしても家具や木材の中に潜んでいるとは言え、干からびたりしないのか？なんて思いますが、それがこのシロアリの凄い所。驚異のシロアリと言われる所以でもあるのです。

水分がほとんど無くても生き抜いてしまうシロアリは、侵入経路が特定できず！

アメリカカンザイシロアリのカンザイを漢字で書くと、乾材。アメリカ出身の乾いた

材でも生きていけるシロアリ、というのが名前の由来。家具などの木材に含まれる僅かな水分を木材と一緒に摂取できれば、生存できてしまうのです。この生態は住宅にとっては脅威でしかありません。

在来種のシロアリは、地中の水分を補給しつつ、干からびないように日光を避け、外気に触れないように侵入してきます。体内の水分を極力消失させない事がとても大事で、だからこそ住宅に侵入する際は床下から入ってきます。このため我々業者は床下を点検して侵入の有無を確認し、床下に薬剤を散布して予防や駆除を行う訳です。ところがアメリカカンザイシロアリの場合は、例えば羽アリが屋根に舞い降りたら屋根から。出窓



在来種は床下から、アメリカカンザイシロアリはどこからでも侵入可能 (出典：(株)テオリアハウスクリニック)

から壁内に入り込んだり、輸入ベッドに潜んでいたものがフローリングに被害を及ぼすなど、侵入経路が想定外。水分補給の心配が無いので、どこからでも侵入する事が可能なのです。また、一旦入り込んでしまうと何処で生息しているのか判別しづらい。人間の病気で例えると、それはまるでガンのように、一旦発症してしまうと、どこに転移するかわからない。住宅にとっては、まさにガンのようなシロアリなのです。

侵入の見極めは、木くずのような糞の有無

こんな話を綴っていると、この家は、この家具は、アメリカカンザイシロアリに被害されているのか心配になってきますよね。被害の目安は、木くずのような糞です。このシロアリの糞は、サラサラした漢方薬のような粒状で、拡大して見ると俵のような一定の形をしています。玄関の木枠から木くずが出てきて積もる。軒下に落ちる木くずを、何度掃いても同じ所に落ちてくる。こんな症状が続くようなら疑った方がいいですし、輸入家具などから木くずが出てくる場合も同様です。こんな時は、信頼のおける業者にまずはご一報下さい。とは言っても、アメリカカンザイシロアリの知識があり、しっかりとした判断や駆除対策が行える業者はまだ一握りです。このメルマガを読んで頂いたのも何かのご縁ですから、もしご心配な時は弊社もしくは私にご連絡下さいネ。(笑)



アメリカカンザイシロアリの被害があると粒状の糞が積もる

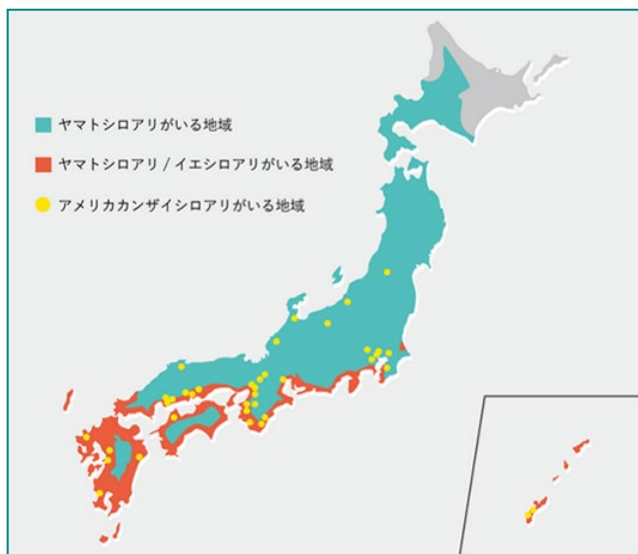


糞を拡大して見ると、俵のような一定の形状 (出典：(株)テオリアハウスクリニック)

アメリカカンザイシロアリの日本の生息地域は？

弊社が取材協力を行って2009年1月に放送されたNHK総合「クローズアップ現代」のアメリカカンザイシロリ特集は大きな反響を呼び、民放各社の報道・情報番組でもあちこちで脅威の外来種を取り上げて追従。我々も何かとご協力させて頂きました…(笑)。あれから12年。メディアに取り上げられなくなったので被害は収束したと思っている方も多いのですが、残念ながらしっかりと日本で根付いてしまっています。

ただこのシロアリ、日本全国どこにもいる、というよりはピンポイントで生息しています。ポツンと1件のみで発見されるケースは結構多いんです。輸入家具に潜んでいた所を発見されて、広がる前に駆除に伺うパターンですね。しかし、気が付かれずに放置される事もあります。東京都内のある事例では、放置された空き家にアメリカカンザイシロリが繁殖。ここが震源地となり毎年6～7月に羽アリが飛び立ち、この地点を中心に直径2kmのエリアに生息し続けている、という



日本におけるシロアリの生息分布
(出典：(株)テオリアハウスクリニック)

地域もあります。10年以上かけて広がったのですが、羽アリはブンブン飛べる訳ではなく、タンポポの種子のように微風に乗ってフワフワ漂うような飛び方で、それ程遠くは飛べないので、この程度で収まっています。どちらかと言うと、日本各地に拡散させているのは人間なんですよネ。アメリカカンザイシロリの潜む品物の売買とか、被害に気付かぬままに引っ越して被害家具を移動させてしまうとか…。是非とも読んで頂いている皆様には、被害兆候には敏感になって頂けたらと思います。

被害が発生した詳細な地域を教えて！と、よく聞かれますが、あまりに具体的に表記してしまうと、その地域の地価に影響を及ぼしかねないですよ。そんな所の土地をわざわざ買って家を建てよう、なんて思わないですもの。テレビで報道された時も、取材地の詳しい住所がわからないよう工夫がなされていました。具体的には言えませんが、例えば輸入商品が大量に入って来る港町、輸入商品を扱う店が集中している地域、米軍基地周辺などがありますが、全く関連性の無い閑静な住宅地で被害が広がっているケースもありますので、一概には言えません。くれぐれもアメリカカンザイシロリの糞らしき木くずを見掛けるなどの兆候には、充分ご注意下さい。

■ 編集後記

PVC（塩ビ素材）の特長を活かした製品のコンテスト「PVC Award 2021」の公募を2021年7月1日から9月30日まで行い、100点近くの応募をいただきました。PVCの優れた特性を活かして機能を付与した様々な用途の新しい製品が集まりました。①テーマ「生活を豊

かにする PVC 製品」への適合性、②市場性、③機能性、④独創性、⑤環境・社会貢献度の5つの審査基準に沿って評価を行い、審査結果は12月16日(木)に公式ホームページ(<http://www.pvc-award.com/>)に公表します。

(PVC Award 事務局)

■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
